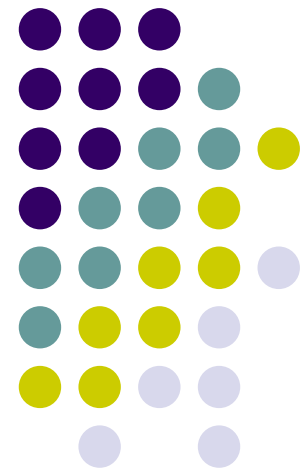


日本OSS推進フォーラムの 活動状況

ステアリングコミッティ 座長
山田 伸一

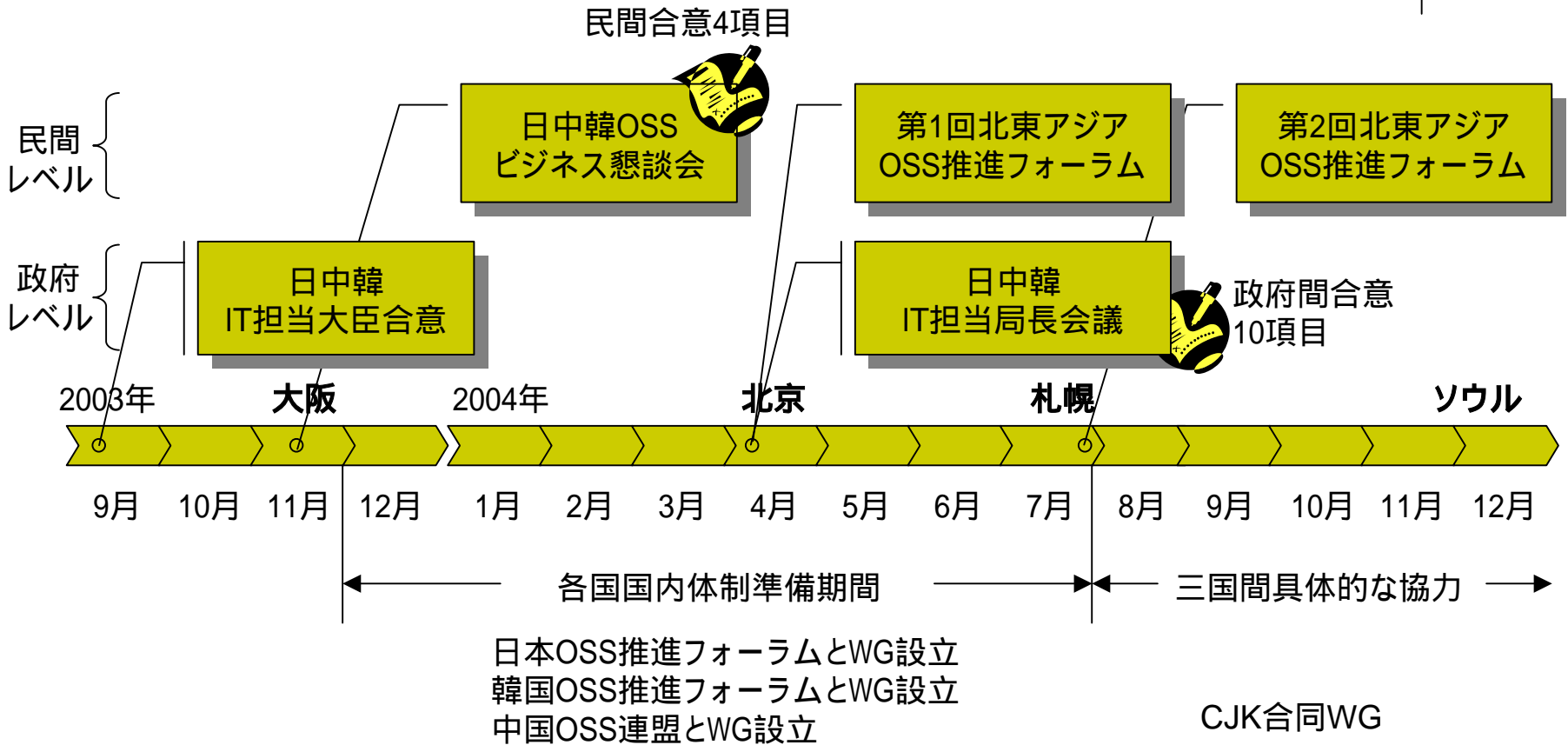


Agenda

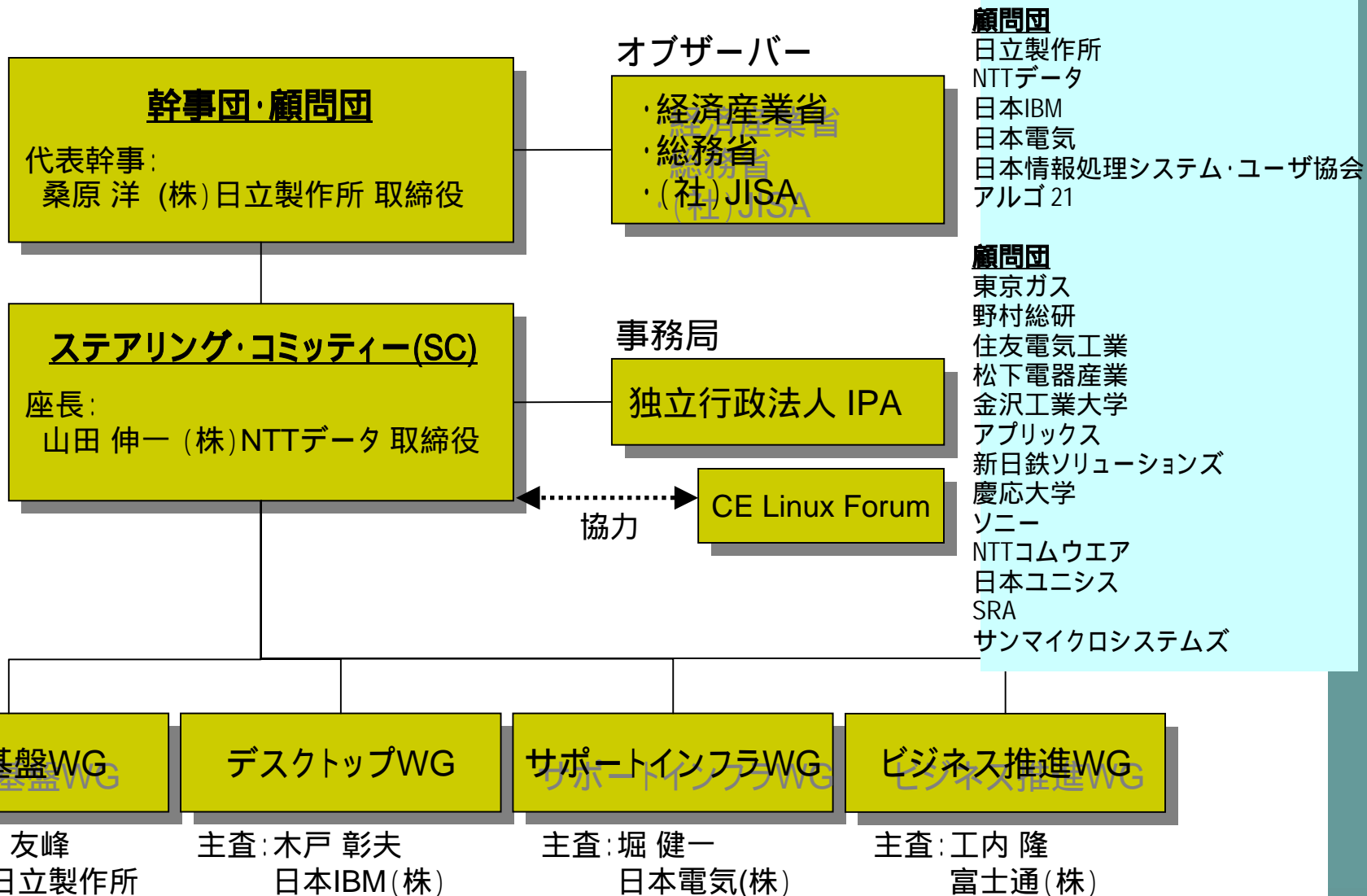


- 日本OSS推進フォーラムの設立
- OSSの普及課題
- 日本におけるWGの組織化状況
- 各WGの活動状況紹介
- CJK3カ国合同WGの提案
- おわりに

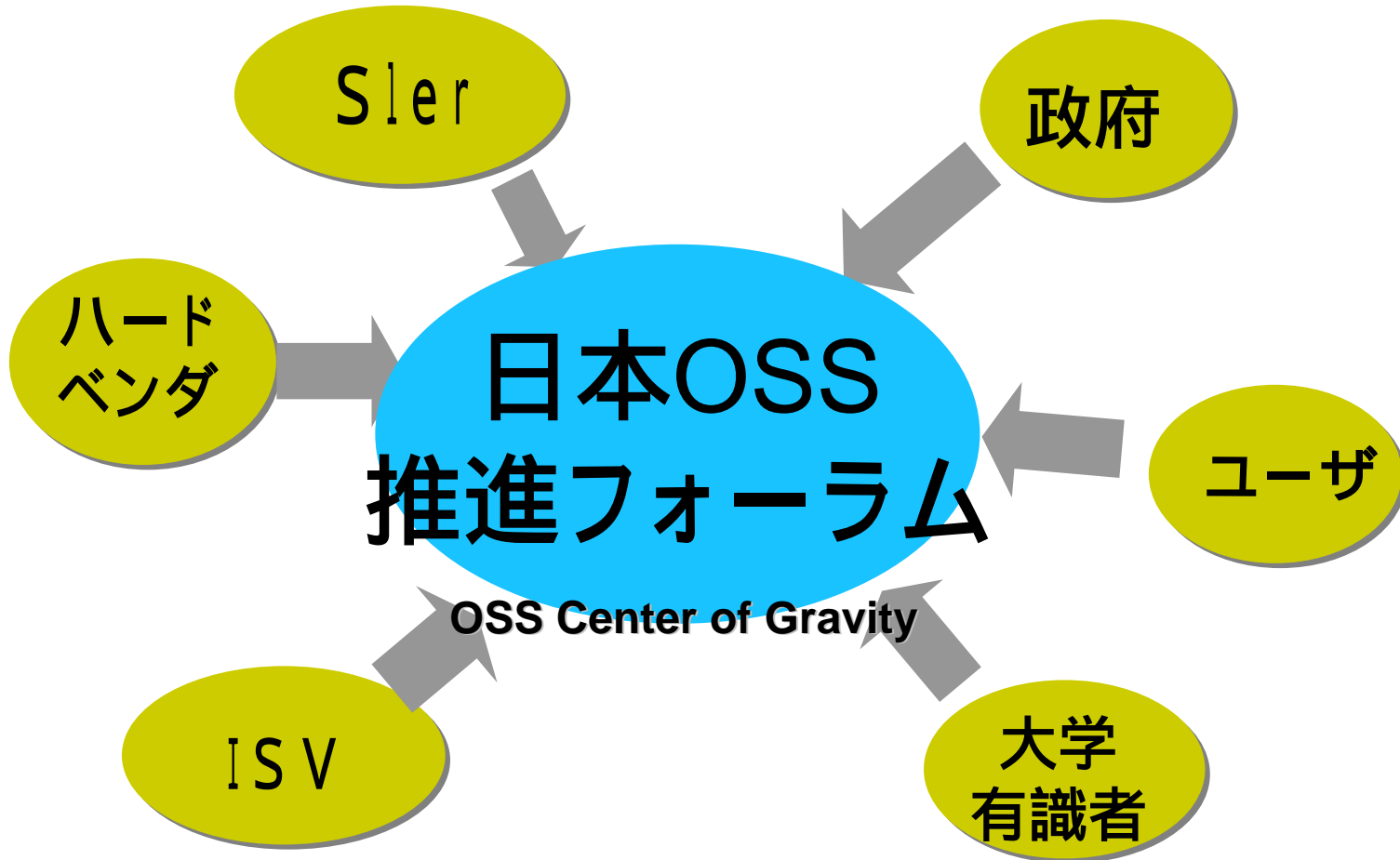
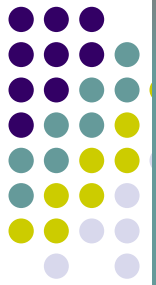
OSS推進に関する日中韓三国協力の流れ



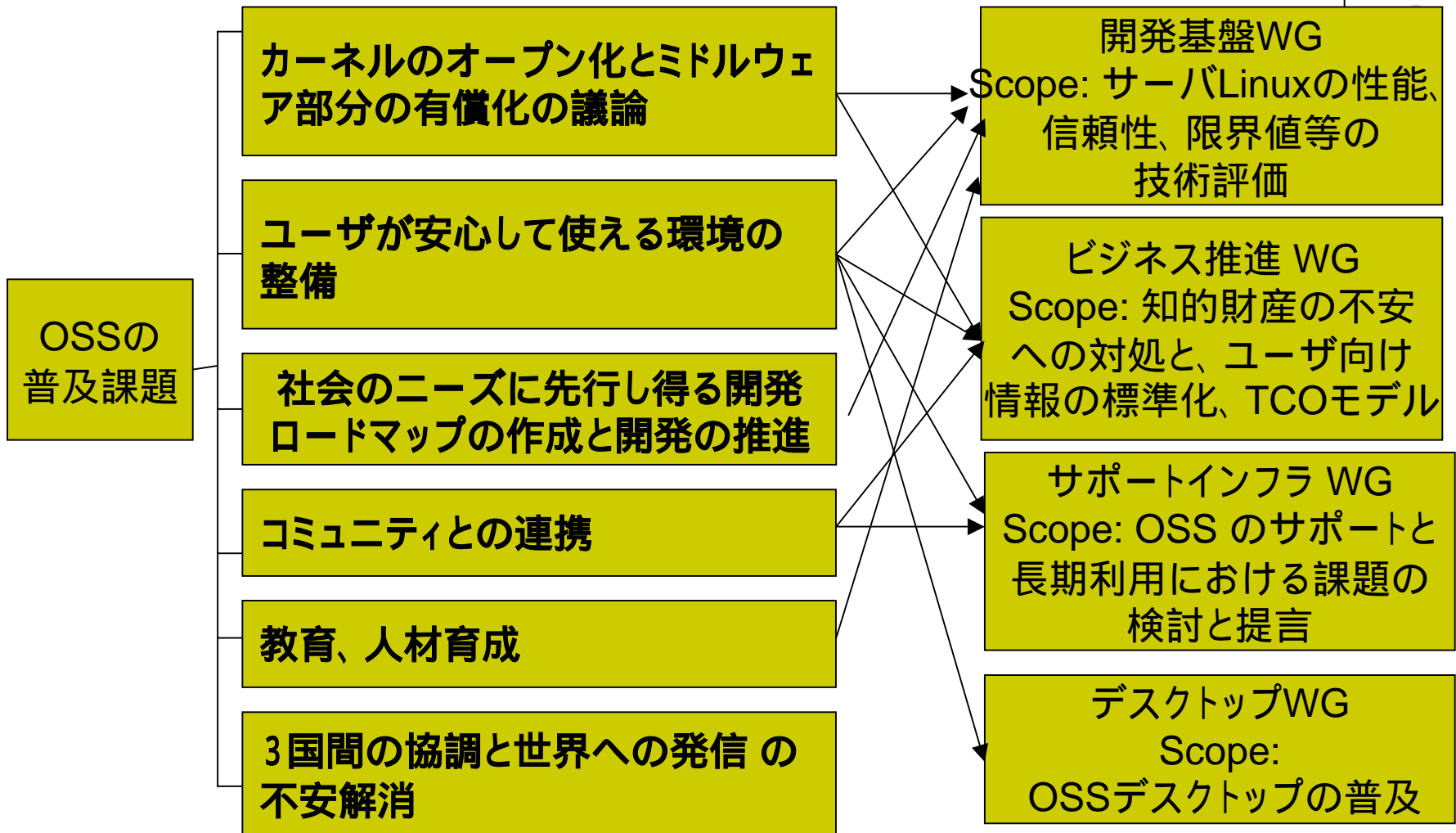
日本OSS推進フォーラム 組織図



日本OSS推進フォーラムへの結集



推進課題とWG



日本OSS推進フォーラム WG一覽



WG	主査	目的	実施状況
デスクトップ	IBM 木戸	普及を妨げる課題を解決し、実用性を実証することにより、OSSデスクトップの普及を図る。	学校・官庁・企業などでのLinuxデスクトップの要件を整理中。実証実験を通じて有用性や不足している項目の整理を行うこととした。
開発基盤	日立 鈴木	サーバLinuxの性能、信頼性、限界値等の技術評価に関し、相互に情報交換し、利用範囲の拡大を図る。	参加企業間でのノウハウ共有を検討。信頼性・性能検証、ツール開発を通じて、OSSの改善および共有を進めることとした。
ビジネス推進	富士通 工内	OSSのビジネス展開に必要な基盤整備を行う。	OSSのTCOモデル検討、ベンダー情報の項目・レベル統一と知的財産問題の提言を行うこととした。
サポートインフラ	NEC 堀	サーバ/デスクトップでのOSSの普及、利用拡大のために(1)OSSのサポート(2)OSSの長期利用における課題を整理し、解決のための取り組みを各方面に提案する	長期利用に向けたロードマップやポリシーを事業者、コミュニティ双方から調査して、提言をまとめることとした。



WG ACTIVITY UPDATES

デスクトップWG



デスクトップWGの概要と活動紹介(1)



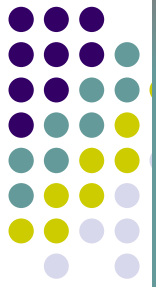
WGの目的	OSSデスクトップの普及を妨げる課題を整理・解決し、実証実験を通じて実用性を実証することにより、OSSデスクトップの普及を図る。
想定 アウトプット	<ol style="list-style-type: none">1. 実証実験データによる客観的な実用性の提示2. 学校用OSSデスクトップのリファレンス構成3. OSSデスクトップのサポートコストの低減化4. 利用実験によるOSSデスクトップの改良点の整理
参加 メンバー	IBM(WG主査)、NTTデータ、住友電工、IPA、アルゴ21 NTTコムウェア、野村総研、富士通、NEC、日本ユニシス、 サン・マイクロシステムズ、ターボリナックス、 ビジネスサーチテクノロジー、ノベル、ジャストシステム、 OSDL、OADG、ミラクルリナックス、キャノン、三菱総研、Mozilla.org

デスクトップWGの概要と活動紹介(2)



活動内容

- ・利用シナリオ(学校、官公庁、企業)に対し以下を実施
 - (1)機能要件、サポート要件と課題の整理
 - (2)課題に対する解決方法の仮説立案
 - (3)実証実験準備
 - 検証項目の整理
 - 課題に対するサンプル実装
 - (4)実証実験の実施
 - (5)実証実験の評価(OSSデスクトップの実用性の検証)
- (学校での利用シナリオでの活動を優先)



WG ACTIVITY UPDATES

開発基盤WG



開発基盤WGの概要と活動紹介(1)



WGの目的	<p>ユーザに信頼できる情報を提供するために、サーバLinuxの性能、信頼性、限界値等の技術評価に関し、相互に情報交換し、サーバ領域でのLinux利用範囲の拡大を図る。</p> <p>このために、ベンダ、Sler、ディストリビュータが集まって、共同でサーバLinux評価を実施する。</p>
想定 アウトプット	<ol style="list-style-type: none">1. 当面の対象とするOSSは、Linux、JBoss、PostgreSQLとする2. 共同での実施項目<ol style="list-style-type: none">(1) ベンチマークの共通化 ツール、手順、結果の共有(2) Linuxの高信頼化につながるようなツール、ベンチマークに必要なツールの開発
参加 メンバー	<p>日立、NTTデータ、NTTコムウェア、NRI、NSSOL、日本ユニシス、SRA、住商情報システム、ミラクルリナックス</p>

開発基盤WGの概要と活動紹介(2)



活動計画

Ph.1～3に分けて、活動を推進していく予定
(現在はPh.1実施の予備検討中)

Ph.1 コミュニティの形成(2004下)

- (1) 国内Linuxベンダ、Slerの結集。民間技術者の連携意識の醸成
具体的実施事項：ノウハウの共有、共同ベンチマーク、高信頼化の周辺ツールの開発
- (2) 中韓との連携できる土壌開拓(人脈の確立、共通意識の確立)

Ph.2 コミュニティの育成(2005～)

- (1) 高信頼化のための評価範囲拡大、情報の発信
- (2) 新しい人材の投入 学との連携
- (3) 中韓との共同開発

Ph.3 コミュニティの発展(2006～)

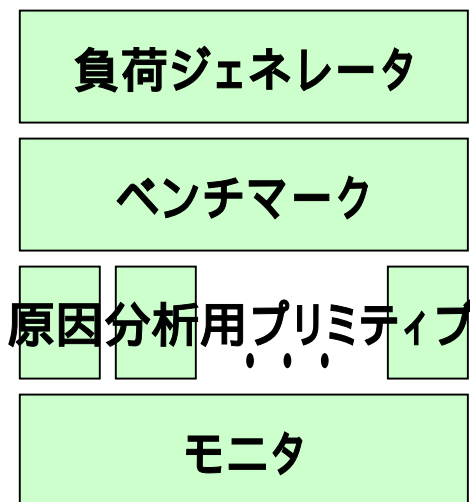
- (1) 共同開発成果の公開、ユーザの拡大
- (2) 適用ユーザ事例の公開
- (3) 共同開発範囲の拡大

開発基盤WGの概要と活動紹介(3)



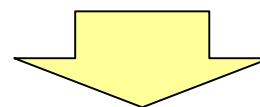
ベンチマークの共通化

ベンチマークをWGメンバーで共同実施することを目的に、
以下Ph.1～3を2005/3までに実施することで検討中

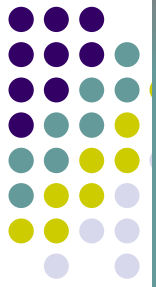


WGで検討中の
ベンチマークの構成

- Ph.1 既存ベンチマーク (TPC-Wなど) をベースに、
もう少しプリミティブなレベルのベンチマークを設計
(手順の検討、ツールの検討)
- Ph.2 必要に応じてベンチマークの開発も行う
(ツール開発・移植、データ作成)
ベンチマークをとった後、プリミティブなレベルで解析
ができるようなツール群を整備 (LKSTを利用)
- Ph.3 測定
分析、評価



手順の共通化
ツールの共通化
結果の共有



WG ACTIVITY UPDATES

サポートインフラWG



サポートインフラWGの概要と活動紹介(1)



WGの目的	サーバ/デスクトップでの OSS の普及、利用拡大のために (1) OSS のサポート (2) OSS の長期利用 における課題を整理し、解決のための取り組みを各方面に提案する
想定 アウトプット	・ 政策担当者への提言 ・ サポート事業者への提言 ・ OSS 開発コミュニティ、OSS 利用者への提言
参加 メンバー	NEC(主査)、富士通、日立製作所、日本ユニシス、野村総研、 NTTコムウェア、NTTデータ、新日鉄ソリューションズ、レッドハット、 ミラクル・リナックス、ターボリナックス、ノベル

サポートインフラWGの概要と活動紹介(2)



活動内容

OSSのサポート

(1) サポート体制

OSS コミュニティ調査、サポート事業者調査、事例調査
共通サービスレベル体系の確立ほか

(2) サポート技術基盤

障害解析ツールと問題解決情報の状況整理
ツールの要求仕様と優先順位ほか

OSSの長期利用

(1) 開発プロセスの計画性

OSS コミュニティ調査、事例調査
プロジェクトへの支援ほか

(2) OSSの後方互換性

バージョンアップと互換性の状況整理
Linux 互換性情報の充実ほか

OSSサポート検討 現在の活動内容



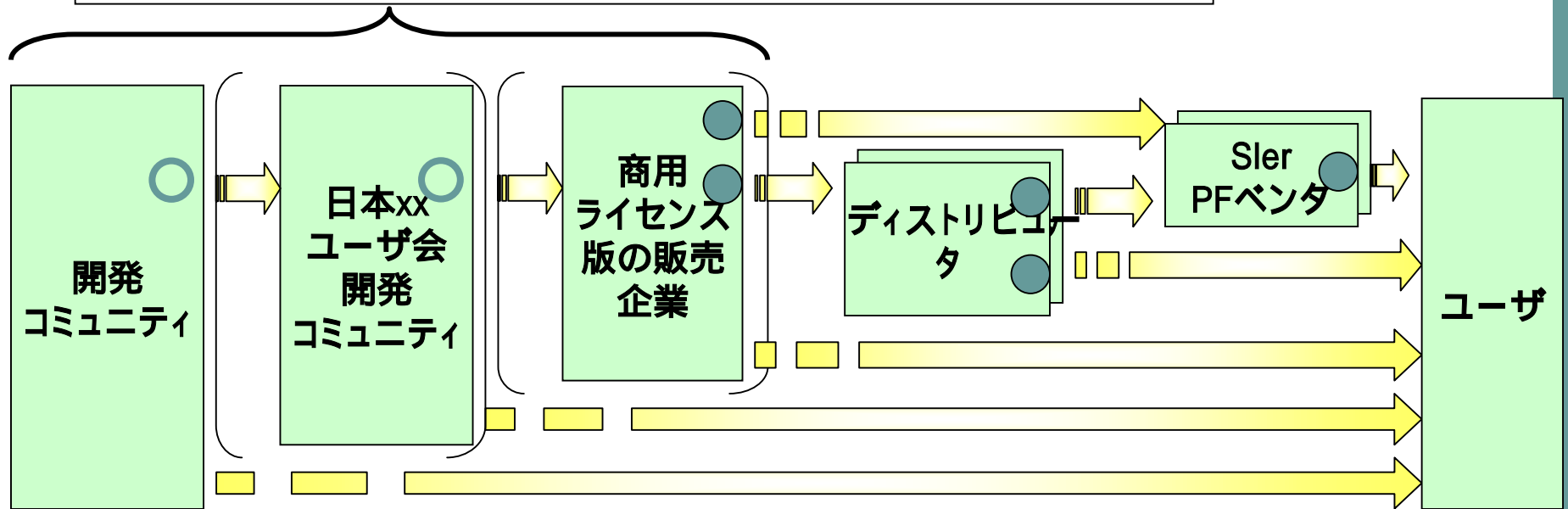
- 主要OSSについて、「ソフトウェアとサポート」がエンドユーザに届くまでのパターンを明らかにしたレポートを作成し、ユーザの不安を払拭する。

- 主要な OSS には、サポート事業者(PFベンダ、Sler 他)が商用ソフトと同様にサポートを提供していることを明らかにする
- 主要な OSS には、確固とした開発コミュニティが形成されており、組織的に開発を進めていることを明らかにする
- ユーザに選択肢があることを示す(ソース公開による開発とサポートの分離)
 - 従来のプロプラ製品と同程度のサポート
 - ユーザ側に力があれば、サポート費用削減の可能性(自己責任型)
- 標準サポートレベル体系の構築の基礎データとする。

調査パターン図のイメージ



- S1. サポート内容/メニュー ●:有償メニュー ○:相互補助窓口
S2. バグトラッキングシステム:有無(BugZilla,ML,個人宛メール,etc.)
S3. サポートポリシー:
S4. サポート状況:(問い合わせ頻度、種別、TAT、修正の種別、頻度など)
S5. ロードマップの有無:
S6. 次期提供の決定方法:



- C1. 活動資金:寄付、パトロン企業、他
C2. 任意団体or法人格(NPO,他)
C3. 定款、運用規則:有無

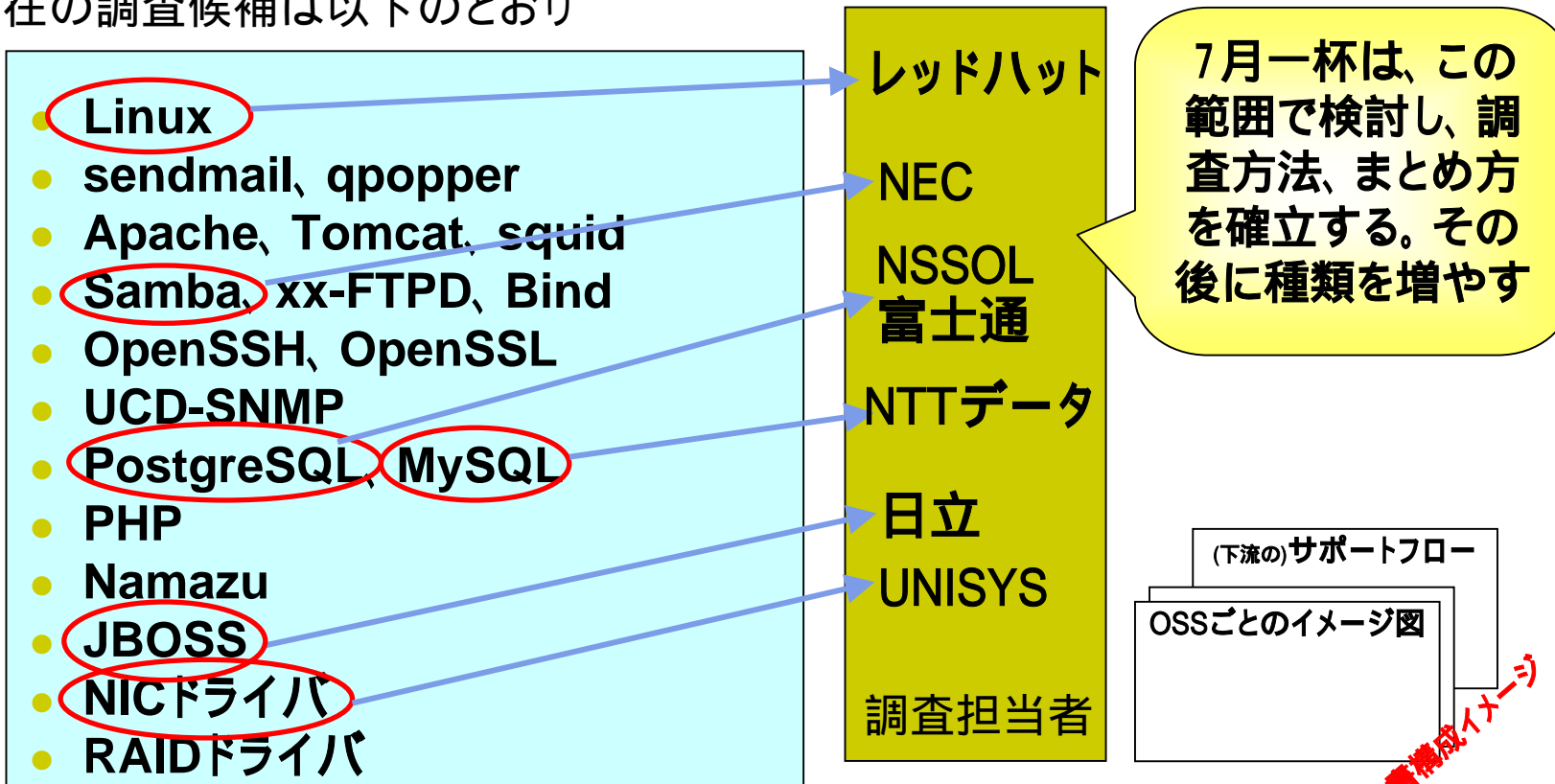
調査対象OSS



● 選定条件

- 一般企業ユーザで今後よく使われると思われる
- 業務システム構築において重要な位置を占める
- 商用サポートの提供(専門サポート事業者、PFベンダ他)がある

現在の調査候補は以下のとおり



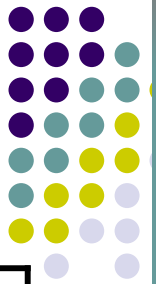


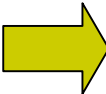
WG ACTIVITY UPDATES

ビジネス推進WG



ビジネス推進WGの概要



WGの目的	OSSのビジネス展開に必要な基盤整備	
課題認識	<u>ユーザ情報提供の課題:</u> (1) TCOベンチマーク (2) ベンダ技術情報 (3) 事例情報 (4) OSS技術情報	<u>知的財産の課題:</u> (1) ユーザの認識 (2) ベンダ、Sler、ディストリビュータのフォーメーション (3) 開発コミュニティの関わり方
想定アウトプット	政策・施策の提言 ガイダンス・ガイドライン	 政策当事者 ITベンダ OSSコミュニティ ユーザ 教育機関
参加メンバー	NTTデータ、NTTコムウェア、新日鉄ソリューション、NRI、富士通、日立、NEC	NTTデータ、NTTコムウェア、新日鉄ソリューション、富士通、日立、NEC、日本UNISYS、METI、SOFTIC、JISA

ユーザ情報提供の強化



課題	現況	OSSFの検討状況
(1) TCO ベンチマーク	<ul style="list-style-type: none">・ベンダ & アナリストに依存・OSS利用の利点が知られていない	<ul style="list-style-type: none">・ユーザの自主的なベンチマークを支援・予算化できる費用項目、予算化できない費用項目のリストアップ・OSS利用の利点を分析中
(2) ベンダ技術情報	<ul style="list-style-type: none">・ベンダの製品情報としてWEB掲載・情報項目がベンダに依存	<ul style="list-style-type: none">・ベンダ主導の情報提供の仕組みは変えない・情報項目の定義、必要情報のガイドラインを検討
(3) 事例情報	<ul style="list-style-type: none">・適切な情報に到達することの困難さ	
(4) OSS技術情報	<ul style="list-style-type: none">・メディア系サイト、個人サイト、ベンダ製品情報の一部、等々に分散・情報の質、鮮度の問題	<ul style="list-style-type: none">・良質なサイトを推薦する仕組み・検討はこれから

知財課題の解消

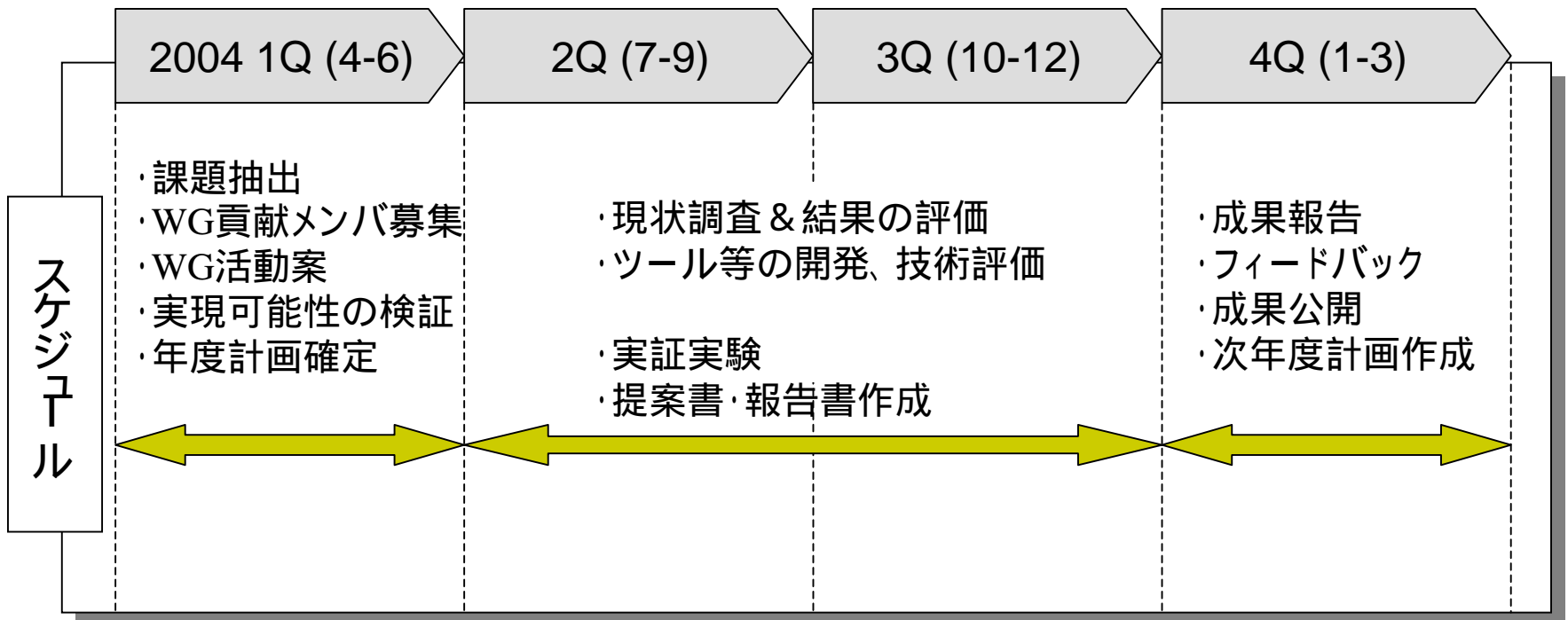


課題	現況	WGの検討状況
(1) ユーザの認識	・FUDによる漠然たる不安	・知財問題に対する正確な情報提供を図る
(2) ベンダ・Sler、ディストリビュータのフォーメーション	・ベンダ、Sler、ディストリビュータのビジネスモデルに依存して説明の違い	
(3) 開発コミュニティの関わり方	・企業に属する開発者と個人で活躍する開発者 ・企業毎に異なる開発プロシージャ	・開発行動に対するガイダンスの提示ができるか検討する

2004年度WG活動スケジュール



- 4WGは次の概略スケジュールに沿って活動を進める。



上記のスケジュールはWGおよびテーマによって若干前後する。

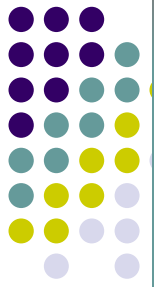


WG ACTIVITY UPDATES

3カ国合同WGの提案



3カ国合同WGの設立提案



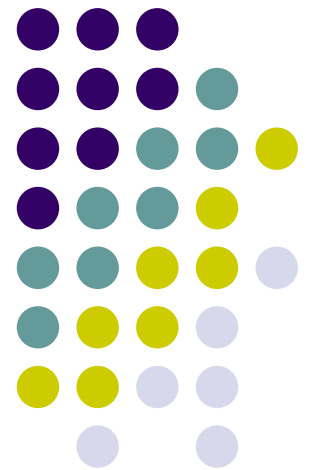
- 3カ国の共同推進の具体的な活動としてWGを提案する。
- 人材育成WGの提案
 - 3カ国共同で、OSS対応人材やコア人材の育成について議論を行うWGを提案した。
- 技術評価WGの提案
 - 3カ国共同で、サーバ向けの技術評価やベンチマークをおこなうWGを提案した。

おわりに



- 日本OSS推進フォーラムを設立した。
- 日本において、デスクトップ、サーバ信頼性・性能、ビジネス推進、OSSサポートにフォーカスしたWGを立ち上げた。
- これらのWGは、広範なOSSの普及課題へ取り組み、さらに参加者も募る。
- 今後のOSS開発と推進に向けた共同の基盤をつくるため、3カ国合同WGの設立を提案した。

參考資料



2003年11月14日大阪会合における民間合意4項目 (JISA、CSIA、FKII間合意)



合意内容
1. 日本、中国、韓国のITサービス産業は、各国においてOSS (Open Source Software) の推進組織の設立を進め、日中韓OSS推進パートナーシップ(仮称)を創設し、三国の推進組織の活動を連携させる。
2. 三国の推進組織は、具体的なアクションプランを早急に策定することが期待される。 (1) 三国間の協力を加速するために、各国のOSSに関するあらゆる活動が容易に理解されるようなディレクトリー ("OSS know-who list") を策定する。 (2) 具体的な協力作業を加速するために適切なWG、例えば、標準化WG、組込みWG、運用管理・サポート・ビジネスモデルWG、人材WGなどを設立する。
3. 三国のITサービス産業は、OSSの品質を保証し、改善するために、政府がOSSを調達することを強力に提言する。
4. 来年以降、三国間の協力プロセスを加速する。日中韓OSS推進パートナーシップの活動が、2004年3月(北京)、7月(札幌(暫定))、11月(ソウル)に行われることを希望する。



2004年4月3日 日中韓IT局長による政府間合意10項目

番号	項目(日本語仮訳)
	OSS,特にリナックスの開発利用のために望ましい政策環境を創る。
	リナックス、文字コード、文書交換フォーマット等の標準化に関して協力し、中国、日本、韓国の各国言語に対するリナックスのサポートを強化する。
	中国、日本、韓国におけるOSSベースのデスクトップ用リナックス、サーバ用リナックス、およびオフィス用ソフトの研究開発、商用化および利用を促進する。
	PDA,デジタルカメラ等のデジタル機器(コンピュータ、通信機器及び消費者家電)における組込みリナックスの共同研究及びその利用を促進する。
	電子政府、企業情報システム及び遠隔教育等の分野におけるリナックスの利用を促進する。
	「リナックス公共サービスプラットフォーム」(または「ソフトウェア産業促進センター」あるいは「エンジニアリングハウス」)の設置のような形で、中小企業を支援する最善の方法について共同で研究する。
	より多くのハードウェア・ソフトウェアベンダーによるリナックスのサポートを促すため、リナックス向けのソフトウェアの認証及び適合性検証を研究する。
	OSSのグローバルコミュニティに対し、中国、日本、及び韓国が一層の貢献をするべく、北東アジアOSSプロモーションフォーラムを設立する。
	OSS、特にリナックスに係る人材育成に関して協力する。
	競争政策のようなソフトウェア産業に係る関連施策について研究し、情報交換を行う。